

病院名・診療科等	会津医療センター(内科総合)
担当責任者	鈴木 啓二

概要／方針等	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年生までの講義で学んだ知識を生かし、臨床実習(BSLプライマリーコース)での経験をさらに発展させ、実臨床で役立つスキルの習得を目指します。 ・ 入院患者を常に1～3症例担当し、診療チームの一員として診療に携わり、プライマリ・ケアに必要な基本的な医療面接・身体診察・診断推論・プレゼンテーション能力を習得します。 ・ プライマリ・ケアに必須のクルズスを通じ、実臨床に重要な知識の整理と定着を図ります。 ・ 総合内科・循環器内科・糖尿病内分泌代謝腎臓内科から選択(複数選択可)して、外来診療を経験し、プライマリ・ケアに必要な初期対応・外来でのマネジメントについて学習します。 ・ 入院・外来患者を通じて問題点を抽出し、指導医とともに問題点を解決する方法を学ぶとともに、自身でも解決するスキルの習得を目指します。 ・ 漢方内科アドバンスド・コースを同時に選択することも可能です(その場合は必ず4週間コースになります)。 	
学習目標	
【一般目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ プライマリ・ケアに必要な基本的な医療面接・身体診察・診断推論・プレゼンテーション能力について学習する。 ・ 採血(静脈、毛細血管)などの基本手技を指導医の指導の下に行い、基本手技習得に努める。 ・ 実施可能な医行為(超音波検査や穿刺、血管造影検査の介助など)の手技を経験する。 ・ 希望する専門外来(複数選択可)を見学し、実際の外来診療について学ぶ。 ・ 計画されたクルズスに出席し、より実践的な知識を習得する。 	
【行動目標】	
<ol style="list-style-type: none"> (1) 担当患者を毎日診察し、良好な人間関係を築き、必要な情報を聴取できる。 (2) 基本的なバイタルサインの測定とその解釈ができる。 (3) 基本的な身体診察とその解釈ができる。 (4) 基本的な実技を指導医の指導の下でできる。 (5) 患者指導・啓発を行えるようになる。 (6) 医療面接と身体診察の情報をSOAP形式で正しく診療録に記載することができる。 (7) 医師だけではなく、他職種のスタッフとコミュニケーションをとることができる。 (8) 担当症例の問題点を抽出し、エビデンスに基づいて指導医とともにその問題点を解決できる。 (9) 担当症例についての病態生理・診断法・治療法を理解し説明できる。 (10) 担当症例について適切なプレゼンテーション・レポート作成ができる。 <p>(11) 実習を通じてより深く知りたいと考えたテーマについて詳細な学習を行い、レポートを作成する。</p>	
テ	キ
ス	ト
特に指定しない。	
参	考
書	<ul style="list-style-type: none"> ・「わかりやすい内科学」(文光堂) ・「内科学」(朝倉書店) ・「カラー版 内科学」(西村書店) ・「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) ・「診察と手技が見える」(MEDIC MEDIA) ・「ワシントンマニュアル」(MEDSI) ・「UpToDate」
評	価
方	法
実習に取り組む態度、症例についてのプレゼンテーション・レポート提出等により総合的に評価を行います。また学生側から指導医の評価も行います。	
そ	他
(メ
ッ	セ
ジ	ー
等)	
2～4週間、会津医療センターでのBSLを楽しんでください。 積極的にチーム医療の一員として、診療にかかわってください。	

実習計画／担当指導医等	
【実習計画】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一週月曜日午前中にオリエンテーションを行います。 ・ 実習は病棟での実習を基本とします。 ・ 希望する専門外来見学(複数選択可)を随時午前中に行います。 ・ クルズスを午後3時頃より1時間程度(随時)予定します。 予定のクルズス(例) 「神経学的診察法」、「輸液の基礎」、「血液ガスの読み方」 「急性冠症候群への初期対応」、「心電図セミナー」、「インスリンの使い方」など ・ 以下の検査介助・見学・手技が可能です。 循環器内科血管造影検査:月曜日終日 ・ 第2・4週木曜日、患者プレゼンテーションおよびレポート報告を行います。 	
* 4. 勉強会の開催について(参加は自由)	
<ol style="list-style-type: none"> ① 心電図セミナー(毎朝8:00～8:30) ② ER勉強会(月曜日18:00～) ③ 総合内科勉強会(木曜日17:30～) ④ 週末カンファレンス(金曜日18:00～) ⑤ 糖尿病・代謝・腎臓内科カンファレンス(木曜日 14:30～) ⑥ NSTラウンド(水曜日 13:30～) ⑦ お室画像カンファレンス(木曜日 16:30～17:30) ⑧ 病理カンファレンス(金曜日 15:00～17:00) ⑨ 心エコー読影会(水曜日 18:00～) 	
【実習担当指導医】	
担当教員等:	
鈴木 啓二 / 教授(総合内科)	
鶴谷 善夫 / 教授(循環器内科)	
橋本 重厚 / 教授(糖尿病・内分泌代謝・腎臓内科)	
宗像 源之 / 講師(総合内科)	

病院名・診療科等	会津医療センター(漢方内科)
担当責任者	三瀨 忠道

概要／方針等	
	<p>漢方(湯液あるいは鍼灸)の診療を希望する患者と診療の実際に関し、受診患者の医学的・社会的背景、漢方医学の効能と医療における必要性を認識し、具体的な診察手技や治療手段(生薬、方剤、鍼灸施術)を経験する。</p> <p>入院患者を主治医(指導医)とともに担当し、漢方医学的な診察、診断(証)、治療の方法を体験的に学び、漢方医学理論の理解を深める。個々の患者や変化する病態に対応した、湯液(漢方薬)あるいは鍼灸による漢方臨床の実際を経験し、漢方治療の運用方法を知る。現代医学的な診断や病態把握を並行して行い、現代医学的視点からも漢方の臨床効果を評価する。入院患者カンファレンスや病棟回診時における受け持ち患者のプレゼンテーション、内科カンファレンスへの参加を通じ、病態を東西両面から把握するトレーニングを行う。</p> <p>多数の症例を経験するために外来診療にも陪席し、診察実技を習得すると共に種々の疾患や漢方医学的診断(証)を経験し、治療の速効性なども確認する。湯液診療の基本となる生薬の調剤、院内製剤の調整などにも参加する。</p>
学習目標	
	<p>[一般目標]: 漢方医学的な診察手技の修得、診断(証)決定の方法、治療の実際(湯液と鍼灸)と効果を体験するとともに、漢方医学的な思想や医学理論を体得し、初歩的な技能を身に付ける。</p> <p>[行動目標]:</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 担当患者には朝夕接し、信頼関係の構築が出来る。 (2) 基本的な四診(望診、聞診、問診、切診)を実施できる。 (3) 脈診、舌診、腹診を実施でき、代表的な所見とその経時的変化を観察できる。 (4) 担当患者に処方された方剤や実施された鍼灸手技について、漢方医学的な適応や使用目標、臨床的意義を説明できる (5) 証の陰陽、虚実、寒熱、表裏、六病位、気血水の病態について説明できる。 (6) 漢方方剤の基本的な運用方法を理解できる。 (7) 基礎的な鍼灸手技を実施できる。 (8) 主要な複数の漢方方剤について、漢方医学的な適応を述べられる。 (9) 担当患者について担当期間の病態変化を漢方医学と西洋医学の両面から説明できる。
テキスト	
	<p>はじめての漢方診療ノート(医学書院)</p> <p>はじめての漢方診療十五話(医学書院)</p> <p>学生のための漢方医学テキスト(日本東洋医学会)</p> <p>経絡・ツボの教科書(新星出版社)</p> <p>図解 鍼灸臨床手技マニュアル(医歯薬出版社)</p> <p>『漢方210処方 生薬解説』じほう</p>
参考文献	
	<p>担当患者主治医(指導医)による診療の様子の評価、回診及び症例カンファレンスにおける発表、診療技能の習熟度、提出レポートなどを総合して評価する。</p>
評価方法	
	<p>実習上の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 患者が自分の身内であったらどう対応してほしいかを常に念頭に置き、服装や態度に留意すること。 (2) 始業前と後には受け持ち患者に面接し、体調変化の有無を確認すること。 (3) 脈診、舌診、腹診を含めて毎日診察(四診)すること。 (4) 主訴や主診断の経過はもちろん、すべての愁訴についてその経過や現状を確認し、患者の全身状態の把握に努めること。特に初回には健康調査票も用いて詳細に患者の全体を把握すること。 (5) 患者のプライバシー保護については十分に留意し、ベッドサイドでの問診には注意を払い、廊下など公共の場所における患者に関する会話などは慎むこと。
その他(メッセージ等)	

実習計画／担当指導医等	
<p><臨床実習計画></p> <p>原則として、病棟実習を優先する。</p> <p>時間があれば、午前中は外来診療に陪席、午後は指導医に随行。</p>	
<p>(1日の予定)</p> <p>7:45-8:15 古典輪読会</p> <p>8:15-8:45 病棟回診</p> <p>8:45- 病棟実習</p> <p>時間に応じて外来診療に陪席(2週間ごとにおけるおおよその予定回数)</p> <p>午前 湯液外来実習(2回+病棟実習の空き時間1-2回)</p> <p>鍼灸診療実習(2回+病棟実習の空き時間1-2回)</p> <p>生薬調剤実習(1回 佐橋)</p> <p>午後 院内製剤(丸薬)実習(1回 佐橋)</p> <p>鍼灸病棟診療(2回)</p>	
<p>(週間予定)</p> <p>月曜日 (第一週8:30 オリエンテーション 指導医紹介)</p> <p>14:30 総回診</p> <p>15:15 5年次BSL湯液セミナー参加(第一週のみ)</p> <p>16:30 病棟カンファレンス</p> <p>火曜日 16:00 5年次BSL鍼灸セミナー参加(第一週のみ)</p> <p>(奇数月第2火曜日19:00 会津漢方診療談話会=自由参加)</p> <p>水曜日</p> <p>木曜日 (奇数月第4木曜日19:00 郡山漢方勉強会=自由参加)</p> <p>金曜日 第一週15:00 一週間の振り返り(指導医)</p> <p>第二週14:00 担当症例報告(レポート) 終了後担当患者にあいさつ</p>	
【実習担当指導医】	
<p>三瀨 忠道 / 教授</p> <p>鈴木 朋子 / 准教授</p> <p>鈴木 雅雄 / 准教授</p> <p>秋葉秀一郎 / 助教</p> <p>佐橋 佳郎 / 助手</p> <p>古田 大河 / 助手</p>	

病院名・診療科等	会津医療センター(外科)
担当責任者	斎藤 拓朗

概要/方針等	
<p>会津医療センターの外科では地域医療、チーム医療、緩和医療、漢方医療の外科領域への導入など最前線の外科医療について学び、さらに将来self learningによる自己研鑽をするための具体的な方法を身につける。このような目的を達成するために、入院および外来患者を主治医とともに担当することにより、手術、処置、診断などの基本的な手技、および術前後管理に参加するとともに、緩和医療に触れる機会を設ける。期間中には地域医療、チーム医療についての理解を深め、また臨床上の疑問を明らかにして最新の医療情報にアクセスする方法を習得するため、モーニング・カンファレンス、手術症例検討会、NSTラウンド、緩和ケアチームラウンド、漢方勉強会および多職種ミーティングなど積極的に参加し、また各種セミナーを受講、抄読会での発表を行う。日々のカンファレンスでは、症例のプレゼンテーション能力を身につける。ここでは、担当患者の臨床経過や診断・治療の要点を理解しているかどうかを評価する。さらに、診療スタッフあるいは患者さんとのコミュニケーション能力を身につけることも重視している。</p>	
学習目標	
<p>〔一般目標〕: 地域医療、チーム医療、緩和医療など最前線の外科医療について学び、さらに将来self learningによる自己研鑽をするための具体的な方法について学ぶ。</p> <p>〔行動目標〕: (1) 担当患者を毎日診察し良好なコミュニケーションの下に必要な情報を聴取できる。 (2) 診療スタッフとコミュニケーションをとりつつ、担当患者の身体診察および家族・地域における役割などの情報を記録としてまとめ、発表することができる。 (3) 各種カンファレンスに参加し、臨床上の疑問を明らかにし、それに対する最新の診療に関するエビデンス(EBM)を検索し、担当患者に適用できる。 (4) 診療に関するエビデンスを検索する方法を習得する。 (5) 手術に第二助手として参加する (6) 手術における外科生理・解剖について説明できる。 (7) ベッドサイドあるいは外来における小外科あるいは処置について理解し説明できる。 (8) 縫合、結紮など基本的な外科手技についてドライラボあるいはウエットラボで実習する(皮膚、消化管の縫合と吻合) (9) チーム医療について理解するために、他職種の診療スタッフとのミーティングに参加し、コミュニケーションをとる。 (10) 緩和医療について理解するために実際に患者さんと接する。 (11) 2週目の抄読会で文献あるいは症例の発表を行う。</p>	
テキスト	イヤートート 内科・外科編
参考書	Digestive surgery now メディカルビュー社 標準外科学 医学書院 各種診療ガイドライン
評価方法	診療の様子の評価、担当患者レポート発表会でのプレゼンテーション、および2週目の抄読会における文献あるいは症例の発表等により総合的に判定される。
その他(メッセージ等)	1. 外科と小腸大腸肛門科は共同で教育・診療体制を構築しており、カンファレンス、抄読会等を合同で行い、またセミナーも分担している。 2. 指導医の下に患者さんの状態に応じて真摯に診療にあたること。 3. 担当患者の治療方針、病名の告知に関しては主治医に予め状況をきいてから対応すること。 4. 月曜日が祝日の際には火曜日朝8:30に集合すること。 5. 時間厳守で行動すること。 6. 病棟用上履きを用意し、手洗いに努めるなど院内感染防止を意識すること。 7. ドライラボ、ウエットラボでの楽しい実習を準備しています。

実習計画/担当指導医等	
<p><臨床実習計画></p> <p>【第1週】 [月曜日] 7:45 回診 / 8:30 オリエンテーション、症例のまとめ方(斎藤・添田) / 9:30 外来・病棟・手術(斎藤・添田・押部) / 16:00 病棟回診・カルテ記載(斎藤・添田・押部) [火曜日] 7:45 回診 8:00 消化器合同カンファレンス / 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術(斎藤・添田・押部) / 16:00 病棟回診・カルテ記載 [水曜日] 7:45 回診 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド / 15:00 緩和ケアラウンド / 16:00 病棟回診・カルテ記載 18:00 合同抄読会 [木曜日] 7:45 回診 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来(斎藤) / 13:30 多職種カンファレンス / 16:00 病棟回診 / 17:00 1日の振り返り 18:00 術前症例検討会 [金曜日] 7:45 回診 8:00 漢方勉強会 / 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド / 15:00 緩和ケアラウンド / 16:00 病棟回診・カルテ記載</p> <p>【第2週】 [月曜日] 7:45 回診 / 8:00 消化器合同カンファレンス / 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術(斎藤・添田・押部) / 16:00 病棟回診・カルテ記載(斎藤・添田・押部) [火曜日] 7:45 回診 8:00 漢方勉強会 / 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術(斎藤・竹重・添田) / 16:00 病棟回診・カルテ記載 [水曜日] 7:45 回診 8:00 大腸内視鏡カンファレンス / 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド / 15:00 緩和ケアラウンド / 16:00 病棟回診・カルテ記載 / 17:00 1日の振り返り / 18:00 合同抄読会(学生発表) [木曜日] 7:45 回診 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 緩和ケア往診 / 13:30 多職種カンファレンス / 14:00 手術症例検討会 / 16:00 病棟回診・カルテ記載 18:00 術前症例検討会 [金曜日] 7:45 回診 8:30 モーニング・カンファレンス(全員) / 9:30 外来・病棟・手術 / 13:30 NSTラウンド / 16:00 病棟回診・カルテ記載</p> <p>【実習担当指導医】 斎藤拓朗 / 教授 竹重俊幸 / 准教授 添田暢俊 / 講師 押部郁朗 / 助教</p>	

病院名・診療科等	会津医療センター(血液内科)
担当責任者	大田 雅嗣

概要／方針等

会津医療センター血液内科／血液疾患治療センターは会津地域全体の血液疾患の診療拠点としての役割を果たしています。地域医療、チーム医療、緩和医療を念頭に血液疾患全般について学びます。血液内科診療には今まで学んできた内科全般の知識が必要とされます。入院患者を担当し診療チームの一員として、基本的な医療面接・診察手技・診断プロセス・プレゼンテーション能力を習得します。入院・外来患者診療を通じて血液疾患の理解を深めます。4週間のコースですが、2週間でも対応します。
疾患の発症・診断・治療・転帰までの一連の経過を体験し、理解し、よりよき医師をめざすための礎のひとつとなるよう応援します。

学習目標

【一般目標(GIO)】
血液内科診療における基本的な医療面接・身体診察・検査診断・治療法・プレゼンテーション能力について学習し、多くの症例を経験することで主要血液疾患についての理解を深める。

- 【行動目標(SBO)】**
1. 担当患者を毎日診療し、良好なコミュニケーションによる信頼関係を築き、必要な情報を得て指導医と日々の問題点について ディスカッションできる。
 2. 基本的身体所見を観察し、バイタルサインの測定を行い正しく評価できる。
 3. 採血などの基本的実技を指導医の監督のもと実施できる。
 4. 血液学的検査所見の解釈が正しくできる。
 5. 病態把握のため、また治療効果判定のための末梢血所見、骨髄像を正しく読み取る事ができる。
 6. 主要血液疾患の病態生理、診断プロセスを説明できる。
 7. 担当症例の問題点をあげ、診療に関するエビデンス(EBM)に基づき治療計画を説明できる。
 8. 造血器腫瘍疾患に対する化学療法・分子標的治療について理解を深める事ができる。
 9. 担当症例についてプレゼンテーション、レポート作成ができる(最低2症例)。
 10. がん患者への接し方、緩和医療の実際について理解を深める事ができる。

テキスト 特に指定しない

参考書
内科学書(中山書店)、新臨床内科学(医学書院)
血液病学(文光堂)
病気がみえる「血液」(MEDIC MEDIA)
Wintrobe's Clinical Hematology (LWW)
造血器腫瘍診療ガイドライン2013年版(金原出版)
UpToDate (Wolters Kluwer)

評価方法
診療の様子、診療記録の記載内容、指導医とのディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどにより総合的に評価をする。将来医師となる者として患者、コメディカルスタッフとのコミュニケーション能力を重視する。

- その他(メッセージ等)**
1. 指導医のもとに患者さんの状態に応じて真摯に診療にあたってください。
 2. 担当患者の治療方針、病名告知に関しては主治医に状況を確認の上対応してください。
 3. 免疫力の低下した患者さんが多いので、診察前後での手洗い、マスク着用に努めてください。
 4. 和気あいあいとした雰囲気ですまじょう。
 5. 血液疾患診療に興味を持ってもらえれば幸いです。
 6. 実習期間中、共に夕食をとる機会を持ち将来のことなど語り合いまじょう。

実習計画／担当指導医等

<臨床実習計画>
最初の月曜日午前8時30分に血液内科病棟(4階北病棟)の医師室でオリエンテーションを実施。月曜日が祝日の場合には火曜日となります。

- 【週間予定】**
- ・月曜日から金曜日まで毎日朝7時15分から電子カルテでのカルテ回診に引き続き病棟回診を実施しています。病院に到着したら合流してください。終日病棟実習となります。
 - ・夕方は午後5時30分頃から毎日病棟回診を行います。
 - ・毎週火曜日午後5時から血液検査室で骨髄像の検討会を実施します。担当患者の骨髄像のレポート作成をしてもらいます(検査室技師の指導あり)。
 - ・適宜クルーズ、骨髄標本カンファレンスを実施します。
 - ・外来診療、外来化学療法を見学することもできます。
 - ・以下の手技を実際に経験してもらいます。
採血、点滴ラインの確保(末梢)、骨髄穿刺検査、骨髄標本の染色など。ただし腰椎穿刺検査については見学。
 - ・毎週木曜日午後5時30分から内科系全体のカンファレンスがあります。参加自由。
 - ・第2、第4週の金曜日夕方に作成レポートを基にプレゼンテーションしてもらい、まとめをします。

【実習担当指導医】

大田雅嗣／血液内科教授
角田三郎／血液内科准教授
野地秀義／本学循環器・血液内科講師(非常勤外来医師)
竹重俊幸／臨床医学部門緩和ケア科 准教授
芳賀 徹／医療技師
鈴木 学／薬剤技師
富田佳加／外来化学療法認定専門看護師(看護学臨床准教授)
後期研修医(不定期)